


2007年3月期 決算説明会資料

2007年4月24日

**5年連続増益、過去最高益を更新**  
**～営業利益は450億円を達成～**

 株式会社日立ハイテクノロジーズ

執行役社長 大林 秀仁

【お問合せ先】

社長室 広報・IRグループ 部長代理 加藤 弘之

TEL : 03-3504-5138 FAX : 03-3504-7123

E-mail : kato-hiroyuki@nst.hitachi-hitec.com

## ＜ 発 表 目 次 ＞

<b>・ 2007年3月期 決算概要</b>	
2007年3月期実績(ハイライト・偏差説明)	
2007年3月期実績(売上高・営業利益・経常利益・当期利益)	4
財政状態(貸借対照表)	6
財政状態(キャッシュ・フロー)	9
経営指標の推移(FIV・ROE)	10
<b>・ 経営基本方針</b>	11
企業ビジョンと運営方針	
研究開発投資計画	13
グローバル戦略	15
モノづくり力強化と環境経営	16
<b>・ 2008年3月期 業績予想概要</b>	17
2008年3月期業績予想(ハイライト・増減説明)	
2008年3月期業績予想(売上高・営業利益・経常利益・当期利益)	19
主要事業説明	
- 半導体製造装置	21
- 液晶関連製造装置	24
- HDD関連製造装置	27
- ライフサイエンス関連事業	30
- チップマウンタ	33
	35
- 商事部門	36
<b>参考: データ集</b>	40
四半期決算の推移	41
設備投資額・減価償却費・研究開発費	42
主要製品群別売上高の動向	

# . 2007年3月期 決算概要

---

## 2007年3月期決算(ハイライト)

(億円)	金 額	前年同期比	前回予想比
売上高	9,516	+ 7%	+ 3%
営業利益	451	+ 25%	+ 15%
経常利益	443	+ 26%	+ 15%
当期利益	261	+ 36%	+ 13%
一株利益	189円81銭	+ 36%	+ 13%
一株配当	25円00銭	± 0%	± 0%

1. 全項目で予想値を上回る
2. 営業利益・経常利益・当期利益は5年連続増益、過去最高値を更新
3. ROEは12.7%に上昇(前年同期比+2.2%)

(注) 前回予想は、2007年1月の第3四半期決算発表時の見通し

## 2007年3月期決算実績(偏差説明)

### 対前回予想値(2007年1月3Q決算発表時)比較

1. 売上高 ( 9,200億円      9,516億円      + 316億円)

\* 電子デバイスシステムでは、半導体製造装置、HDD関連製造装置等の好調により162億円増

\* ライフサイエンスでは、欧米向医用分析装置の好調等により72億円増

\* 情報エレクトロニクスでは、メディアデバイスの販売不振、チップマウンタの納期後倒し等により  
101億円減

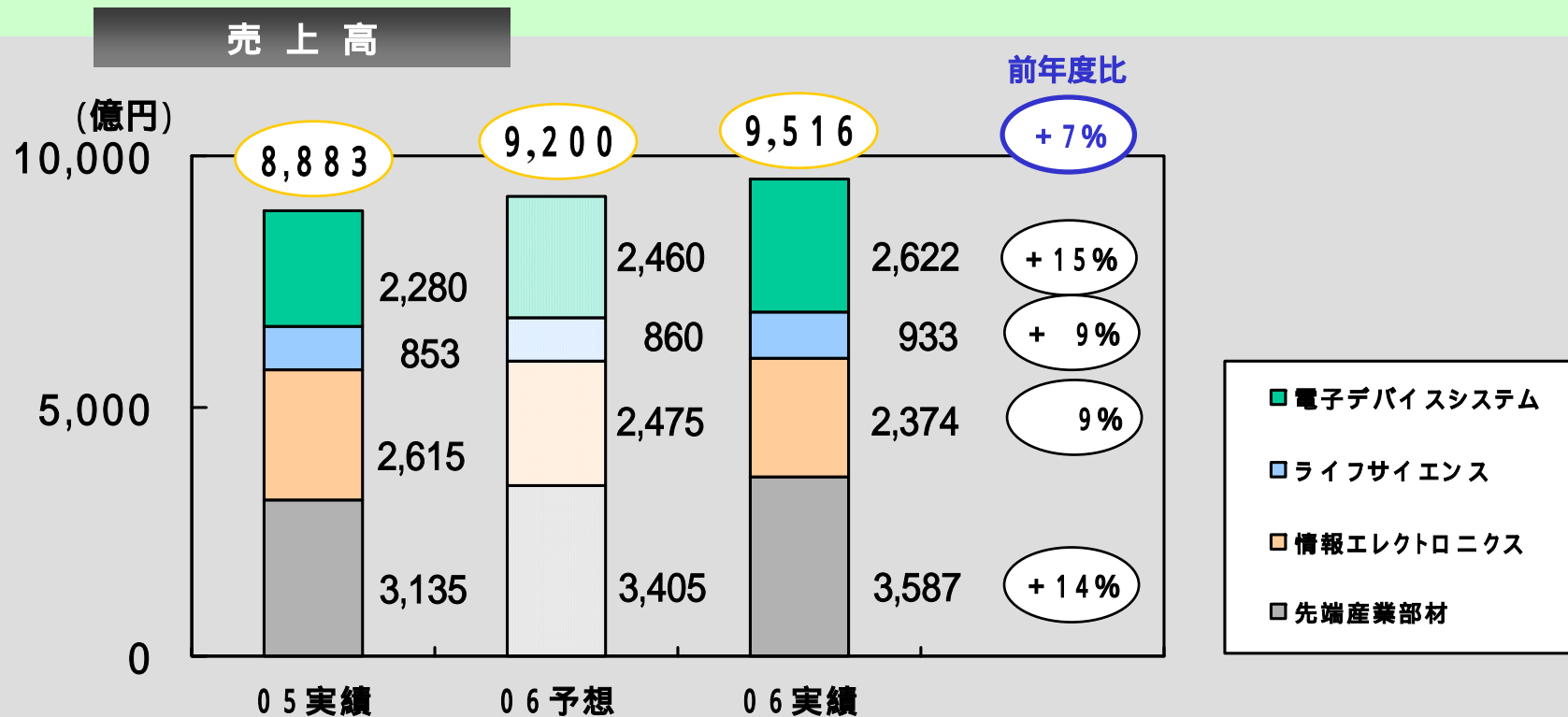
\* 先端産業部材では、素材価格の高値継続やFPD・プリンタ関連部材の需要増等により  
182億円増

2. 営業利益 ( 391億円      451億円      + 60億円)

\* 電子デバイスシステムでは、販売増加に加え、コスト低減等により44億円増

\* ライフサイエンスでは、欧米向け医用分析装置の好調等により19億円増

# 2007年3月期実績(売上高)

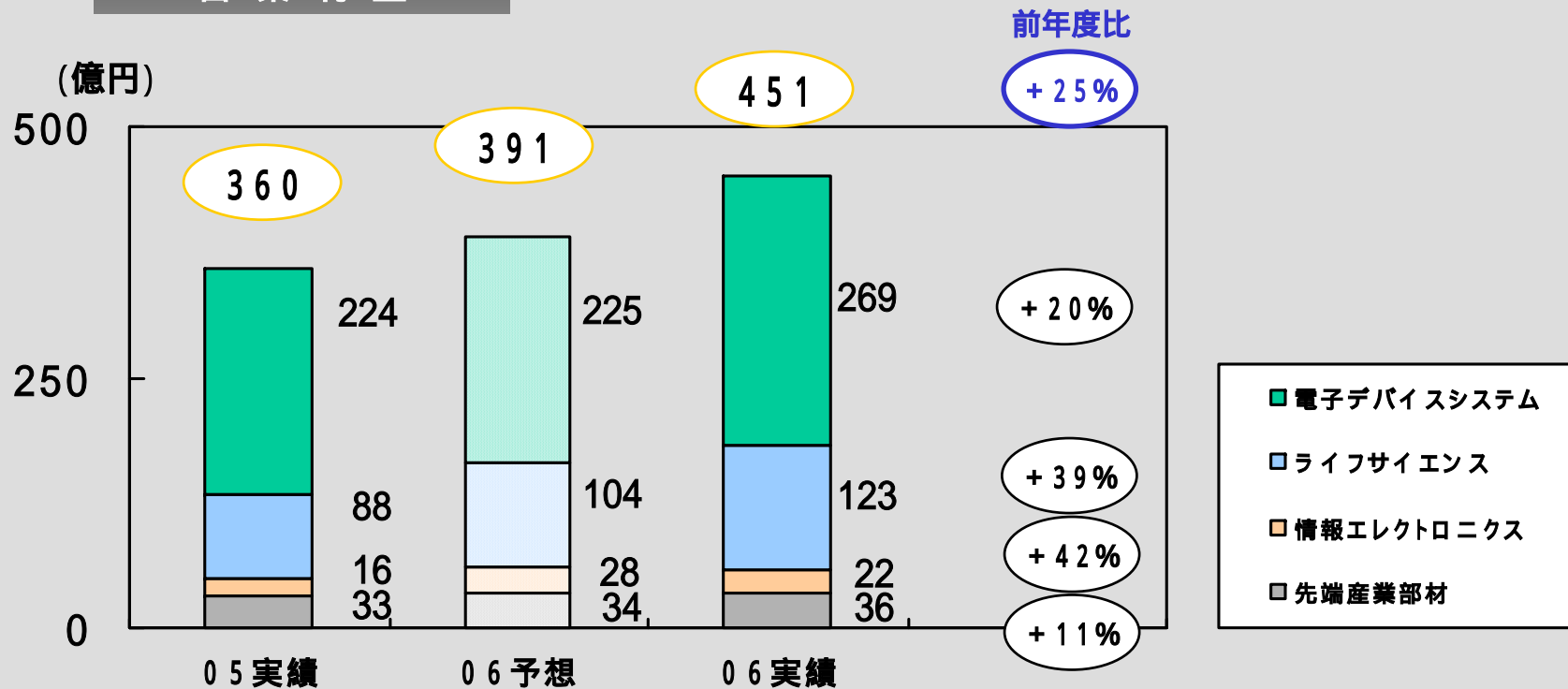


## 【前年度比 増減説明】

1. 電子デバイスシステム：半導体製造装置、HDD関連製造装置の貢献で前年比増
2. ライフサイエンス：欧米向け医用分析装置の新製品投入効果で前年比増
3. 情報エレクトロニクス：携帯電話用半導体デバイスの需要減等で前年比減
4. 先端産業部材：自動車関連部品、FPD・プリンタ関連部材等が増加

# 2007年3月期実績(営業利益)

## 営業利益



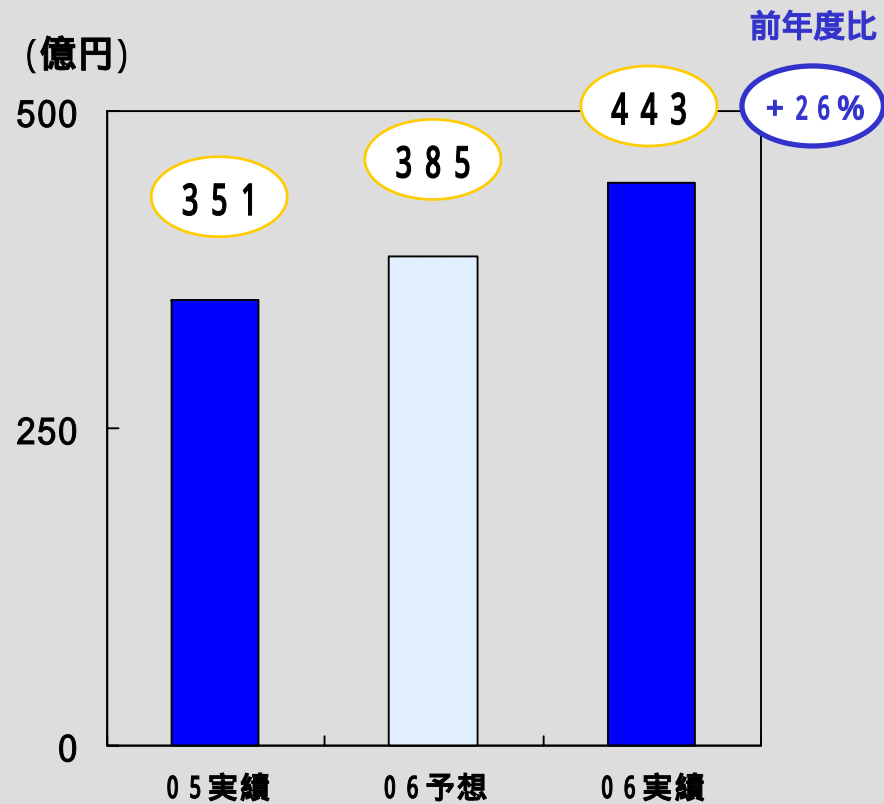
(注)06予想は、2007年1月の第3四半期決算発表時の見通し

### 【前年度比 増減説明】

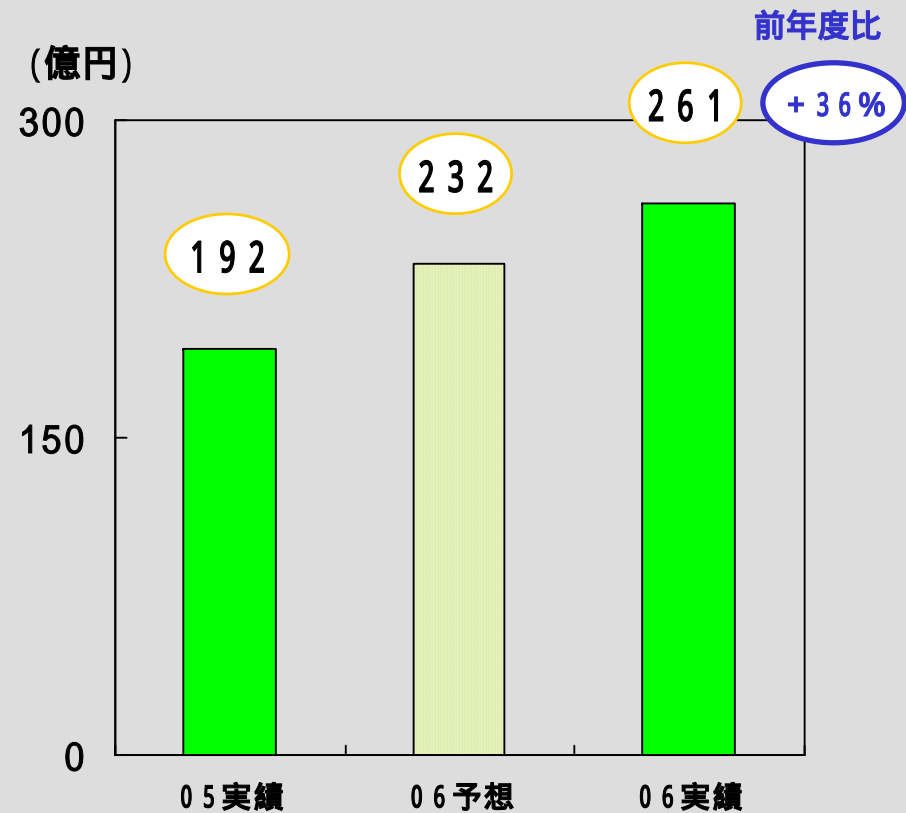
1. 電子デバイスシステム: 半導体製造装置・HDD関連製造装置等の売上増が貢献
2. ライフサイエンス : 欧米向け医用分析装置の好調、ユーロ高の影響等により増加

## 2007年3月期実績(経常利益・当期利益)

### 経常利益



### 当期利益



(注) 予想は、2007年1月の第3四半期決算発表時の見通し



# 財政状態(貸借対照表〔要約〕)

< 2007年3月末 (単位:億円) >

06年3月末  
比増減額

06年3月末  
比増減額

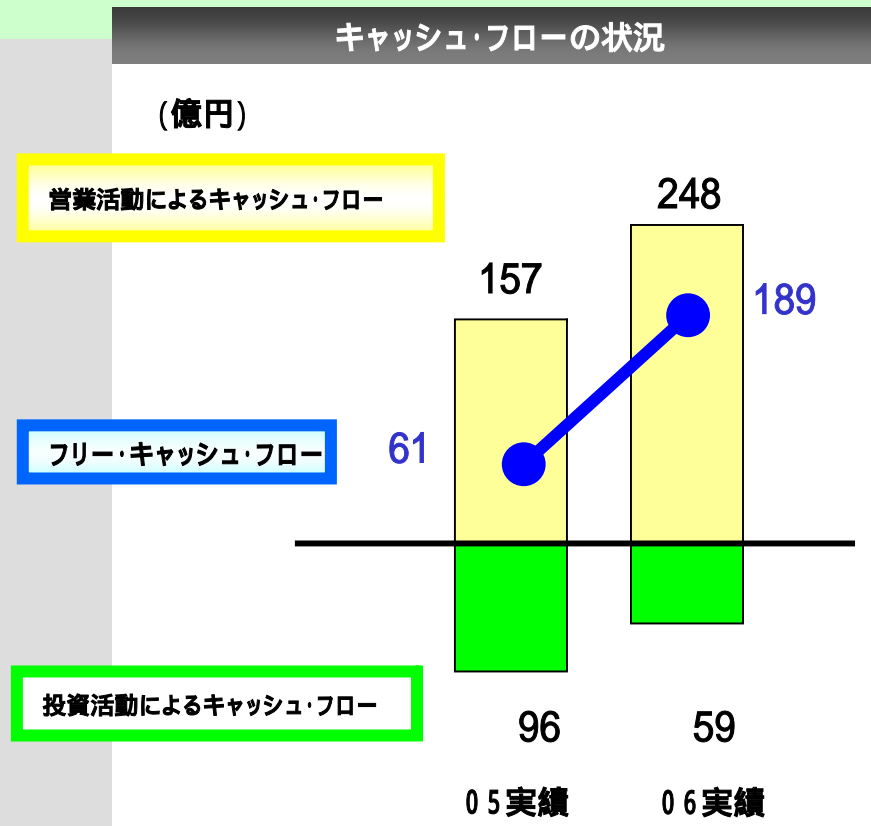
流動資産			3,808	199	流動負債			2,309	6
現預金、関係会社預け金			593	+156	支払手形及び買掛金			1,707	114
受取手形及び売掛金			2,344	38	その他			602	+108
たな卸資産			662	+71	固定負債			280	4
その他			209	+9	退職給付引当金			267	4
固定資産			994	+25	その他			13	0
有形固定資産			571	+25	純資産			2,213	+233
無形固定資産			37	6	株主資本			2,088	+222
投資その他の資産			386	+6	評価・換算差額等			75	+7
					少数株主持分			51	+4
資産合計			4,802	+224	負債・純資産合計			4,802	+224

( )内は対06年3月末比

1. 自己資本比率 : 45.0% (+2.8%)

2. 一株当たり純資産 : 1,572円14銭 (+167円18銭)

# 財政状態(キャッシュ・フロー)



## 営業活動によるキャッシュ・フロー(06実績)

1. 税引前利益	430億円
2. 減価償却費	76億円
3. 運転資金	175億円
4. 法人税等支払	93億円 他

## 投資活動によるキャッシュ・フロー(06実績)

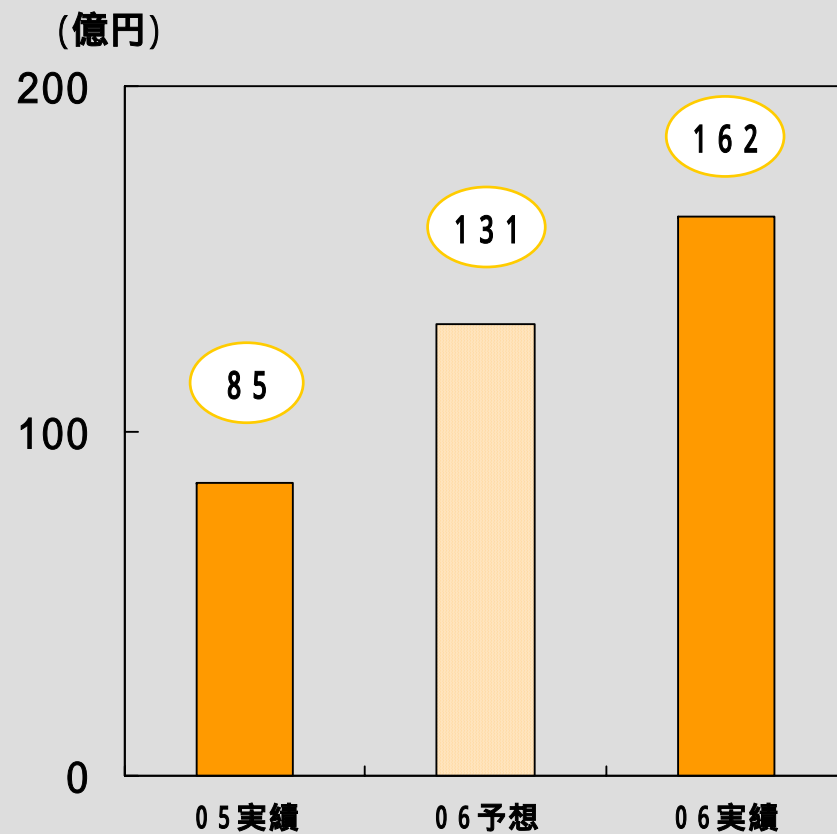
1. 株式取得・売却(営業投資)	2億円
2. 固定資産取得・売却	51億円
3. 子会社株式売却による支出	7億円 他

## 【07年3月末 ポイント説明】

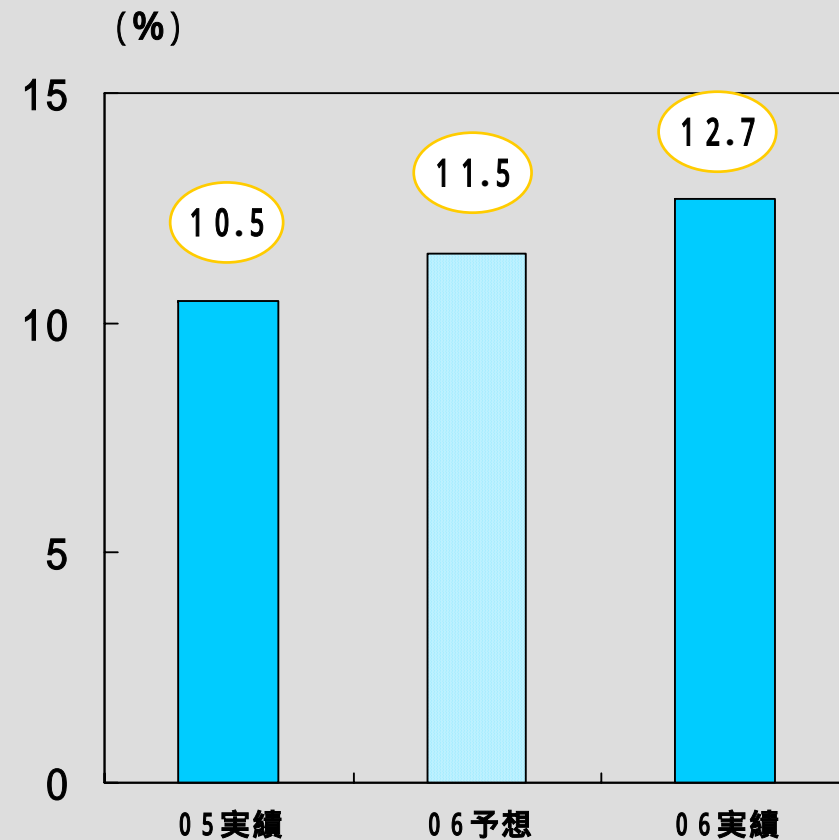
1. 現金及び現金同等物残高 593億円 (06年3月末比 + 157億円)
2. 連結無借金を継続

## 経営指標の推移(FIV・ROE)

FIV(日立式経済付加価値)



ROE(自己資本利益率)



(注) 06年度予想は、2006年10月の06年9月中間期決算発表時の見通し

(注) FIV(Future Inspiration Value) = 税引後事業利益 - 投下資本コスト

投下資本コスト = (株主資本 + 有利子負債 + リース資産) × WACC

# . 経営基本方針

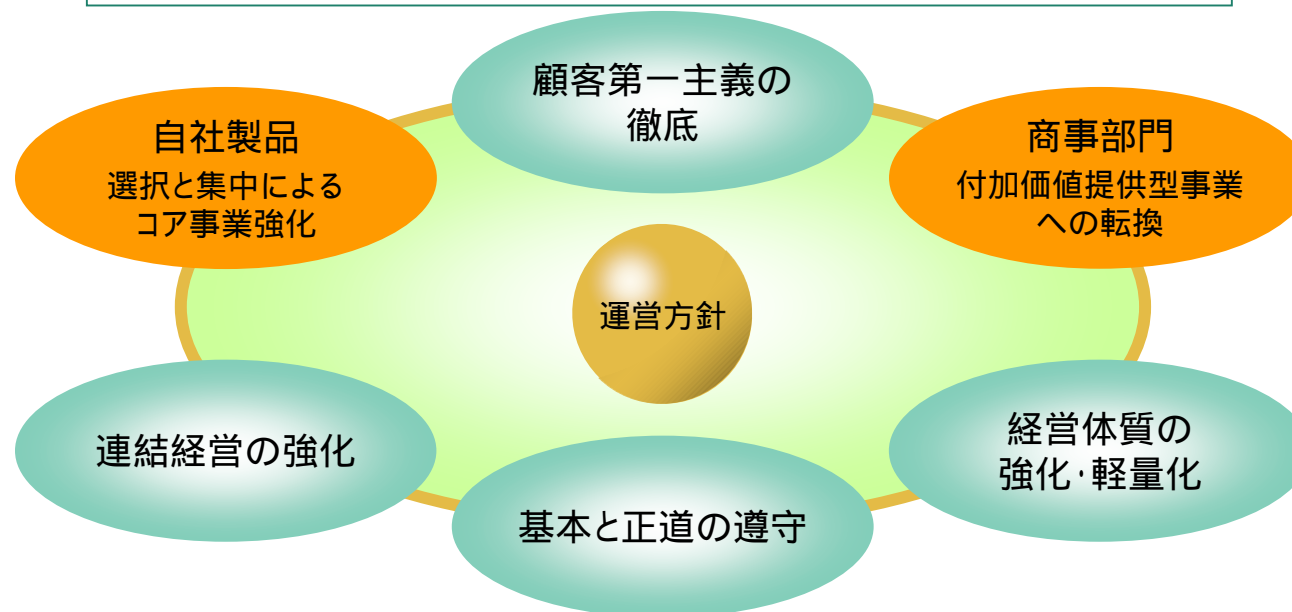
---

# 企業ビジョン

## ハイテク・ソリューション事業における グローバル・トップを目指す

### 経営方針

- 市場の伸びを上回る高成長・高収益企業の実現
- 企業価値の最大化



# 運 営 方 針

## 自社製品：R & D強化による強い製品の開発とスピ - ドアップ

### 電子デバイスシステム

新たな経営の柱となる製品の開発とアフターサービスまで含めたベストソリューション提供

### ライフサイエンス

ナノテクノロジー等の高度技術を活用した成長分野でのプレゼンスの向上

## 商事品：中長期的視点と営業投資による新ビジネスモデル開発

### 情報エレクトロニクス

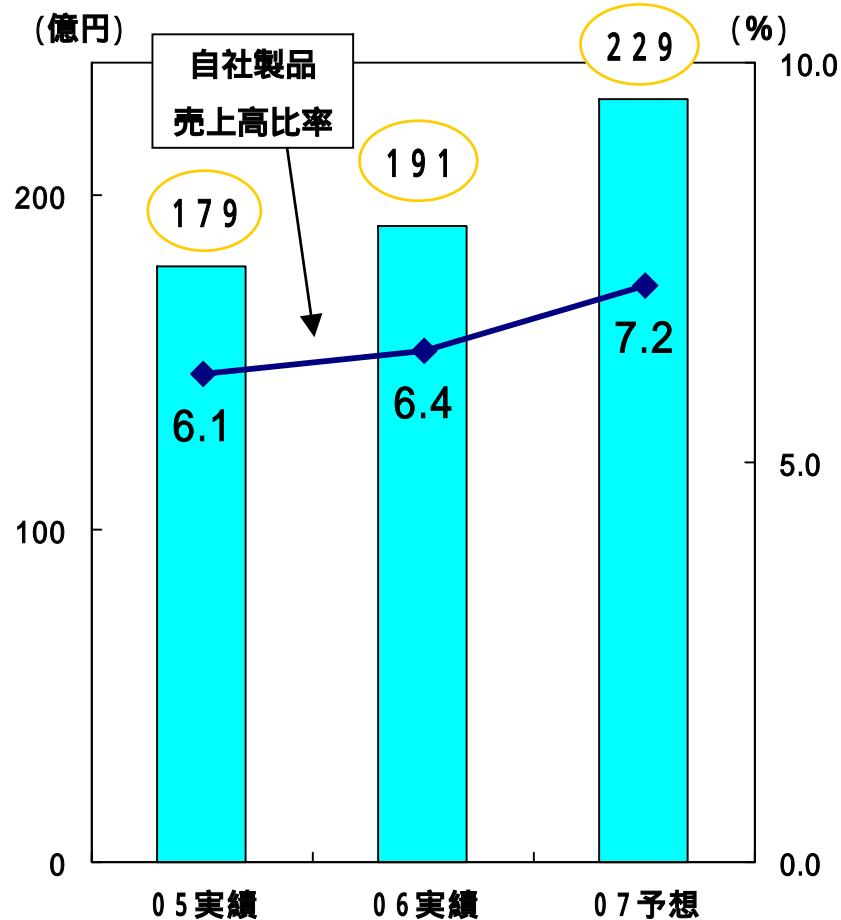
ハード・ソフトを融合した最適ソリューションの提供

### 先端産業部材

グローバルネットワークを活かした付加価値提供型ビジネスの開発

# 研究開発投資計画

【研究開発費】



## 研究開発重点方針

- ・共通コア技術の先行開発強化と早期戦力化
- ・先端顧客との共同開発推進
- ・営業・設計の連携強化
- ・開発スピードアップ、日立の研究所との連携

## 06年度実績

- ・高分解能FEB測長装置「CG4000」
- ・生化学分析装置「LABOSPECTシリーズ」
- ・G8対応液晶関連製造設備

## 07年度の取り組み

### 主な開発テーマ

- ・半導体検査装置
- ・医用分析装置
- ・G10対応液晶関連製造設備

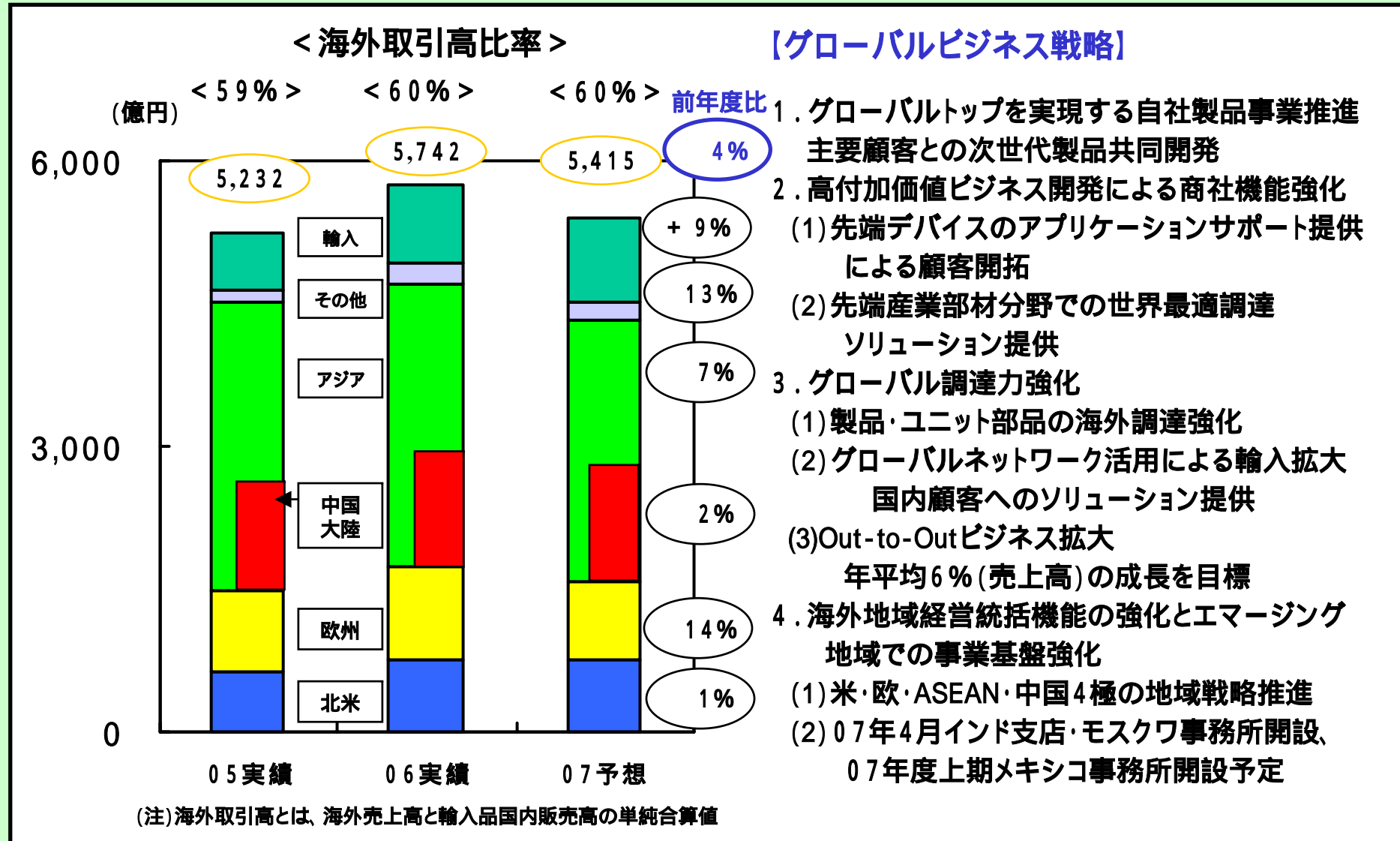
### 主要セグメントの研究開発費売上高比率

- ・電子デバイスシステム : 7.8 %
- ・ライフサイエンス : 8.1 %

## 主な知財戦略

- ・ビジネスツールとしての特許戦略策定と実行
- ・日立ハイテクグループ知財の一体運営

# グローバル戦略





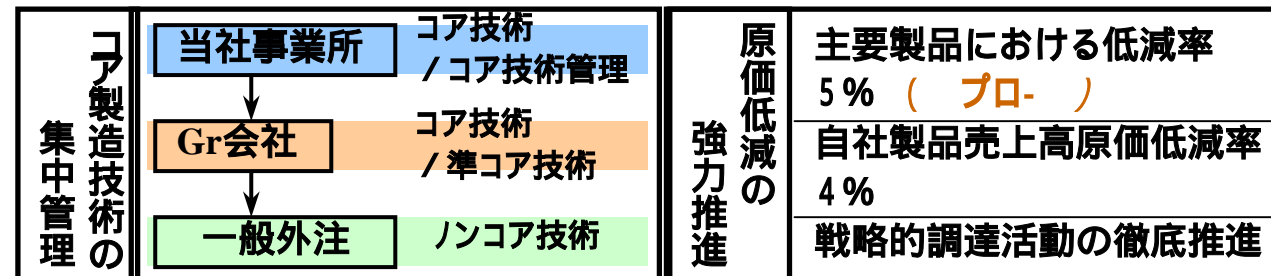
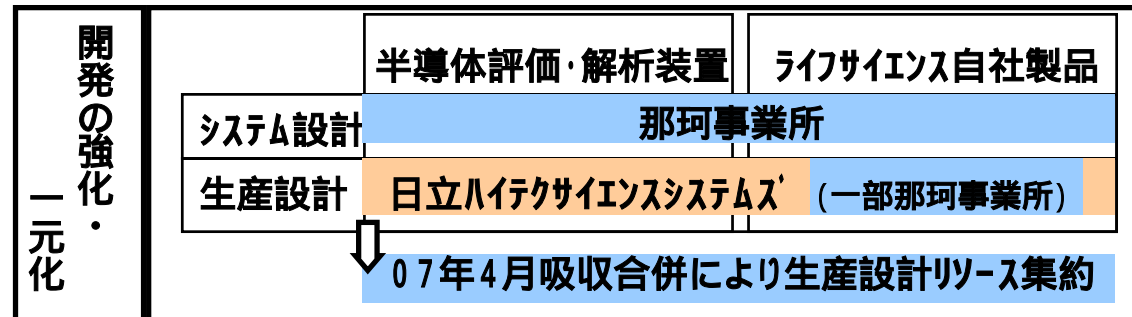
# モノづくり力強化と環境経営

## 最適生産体制の確立

～グループ会社再編による  
設計・製造分担

## コスト競争力の強化

～原価低減プロジェクトの  
強力推進



## 環境経営推進

～環境適合製品適用率  
向上、ゼロエミッション  
推進

### 【環境適合製品適用率推移】

	06年度	07年度	10年度
適用率	70%	72%	80%

<環境適合製品>  
日立グループ共通の評価基準による環境負荷  
の小さい製品

### 【ゼロエミッション達成拠点】

	06年度	10年度
拠点数	6箇所	9箇所

<ゼロエミッション達成拠点>  
年度最終処分率1%以下かつ最終処分量5t未満

# . 2008年3月期 業績予想概要

---

## 2008年3月期業績予想(ハイライト)

(億円)	金 額	前年度比
売上高	9,100	4%
営業利益	420	7%
経常利益	410	7%
当期利益	250	4%
一株利益	181円75銭	4%
一株配当	25円00銭	± 0%
FIV	130	19%
ROE	11.1%	1.6%

(注) 2008年3月期想定レート: 1US\$ = 110円

## 2008年3月期業績予想(増減説明)

### 対前年度実績値(2007年3月期実績)比較

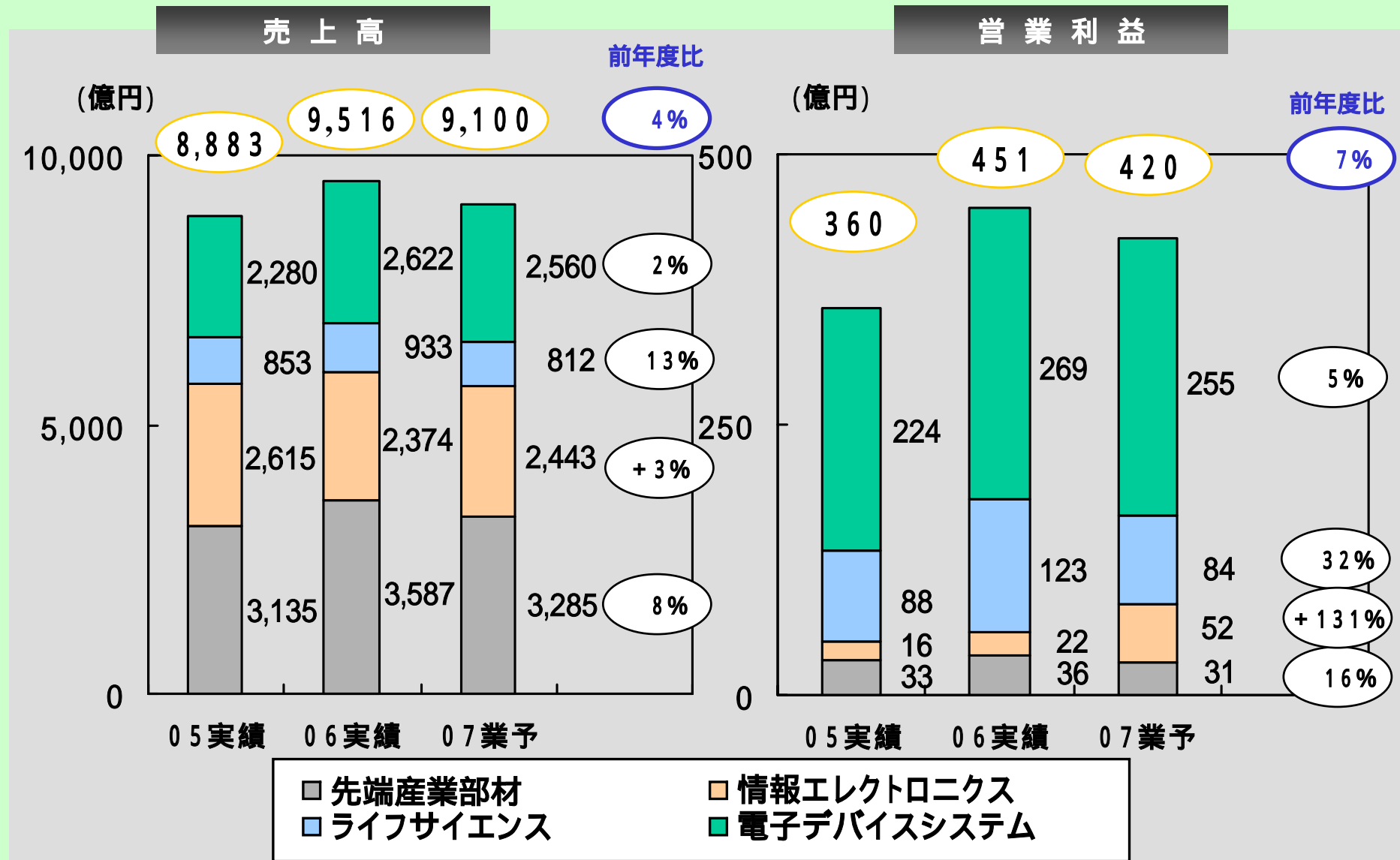
1. 売上高 ( 9,516億円      9,100億円      416億円)

- \* 電子デバイスシステムでは、半導体プロセス・後工程装置、HDD関連製造装置の減少等により62億円減
- \* ライフサイエンスでは、欧米向け医用分析装置の前年度反動減等により121億円減
- \* 情報エレクトロニクスでは、チップマウンタ、情報通信等の販売増により69億円増
- \* 先端産業部材では、プリンタ関連部材の減少や半導体関連部材の需要減等により302億円減

2. 営業利益 ( 451億円      420億円      31億円)

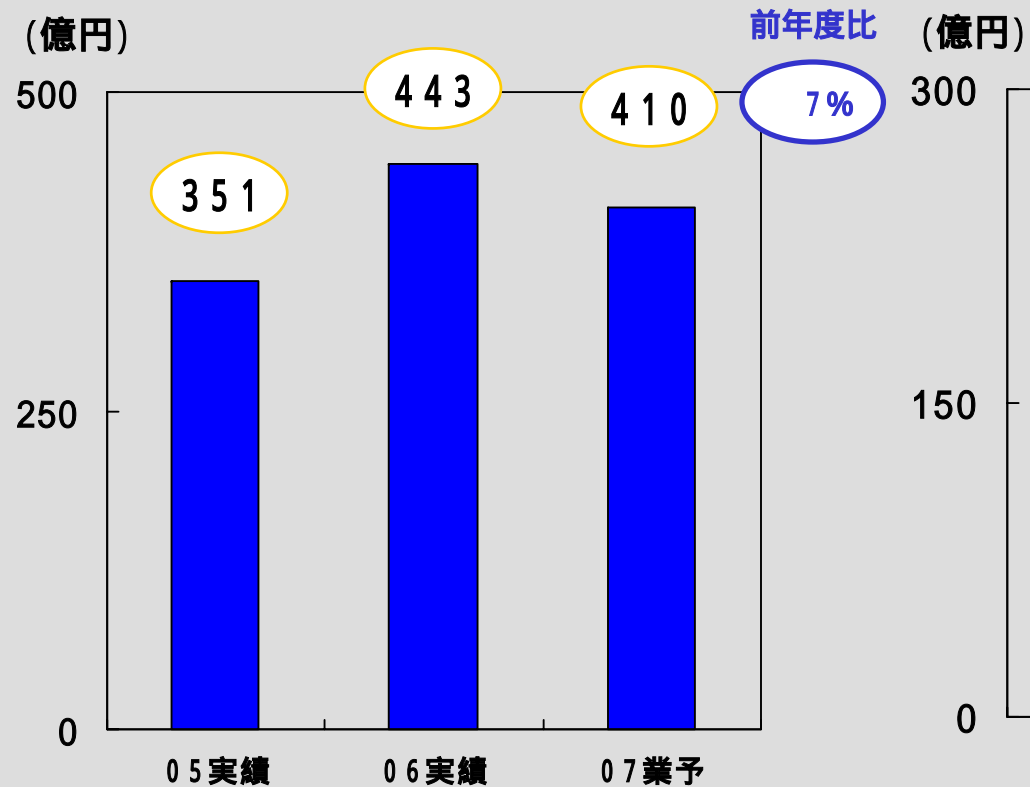
- \* 電子デバイスシステムでは、HDD関連製造装置の売上減、研究開発費増加等により14億円減
- \* ライフサイエンスでは、欧米向け医用分析装置の売上減、為替差益の減少等により40億円減
- \* 情報エレクトロニクスでは、チップマウンタの売上増等により29億円増
- \* 先端産業部材では、プリンタ関連部材の減少や半導体関連部材の需要減等により6億円減

# 2008年3月期業績予想(売上高・営業利益)

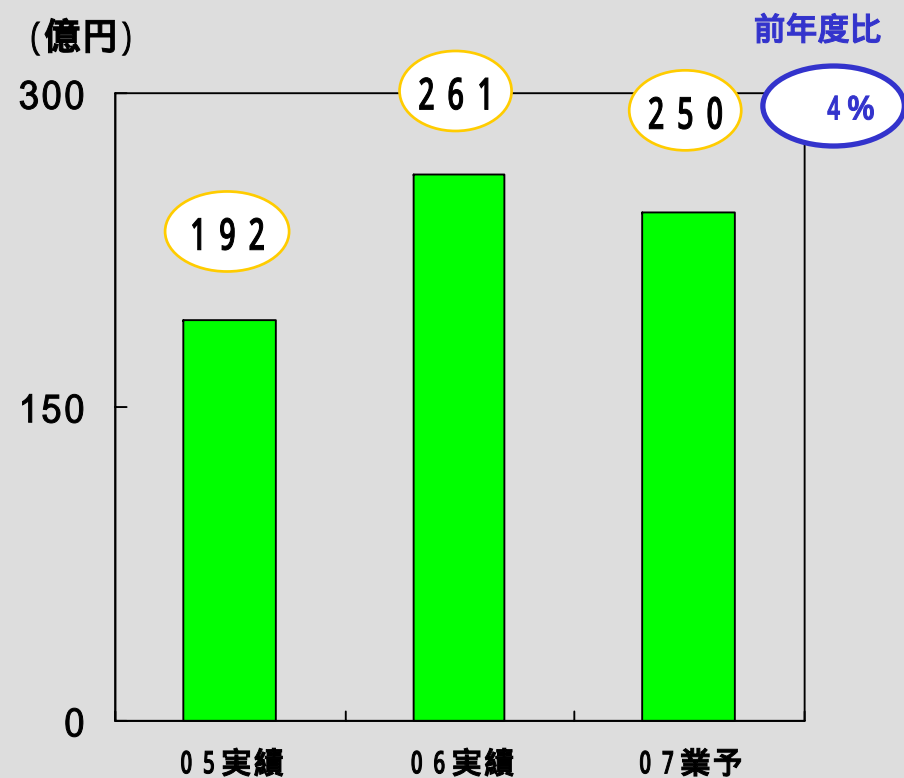


## 2008年3月期業績予想(経常利益・当期利益)

経常利益



当期利益

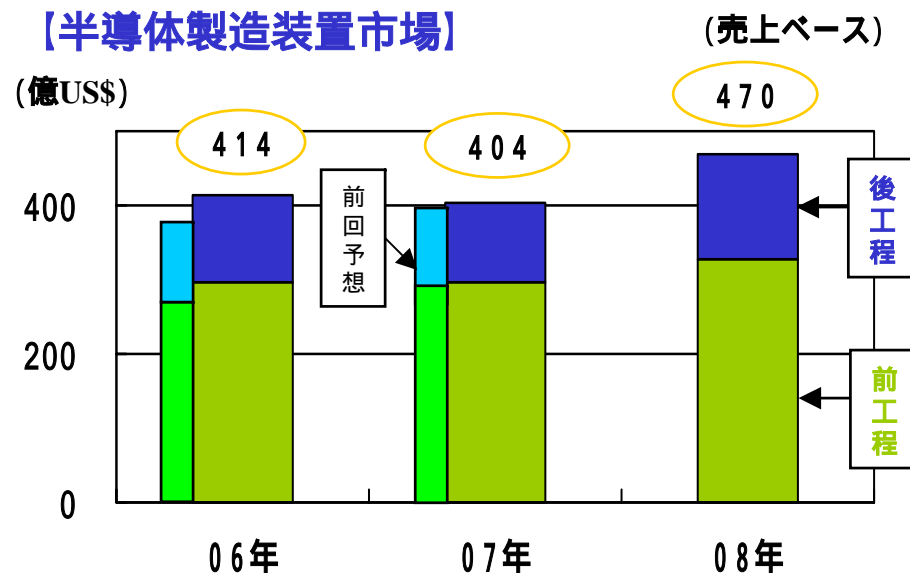


## 主要事業説明

- 半導体製造装置
- 液晶関連製造装置
- HDD関連製造装置
- ライフサイエンス関連事業
- チップマウンタ
- 商事部門

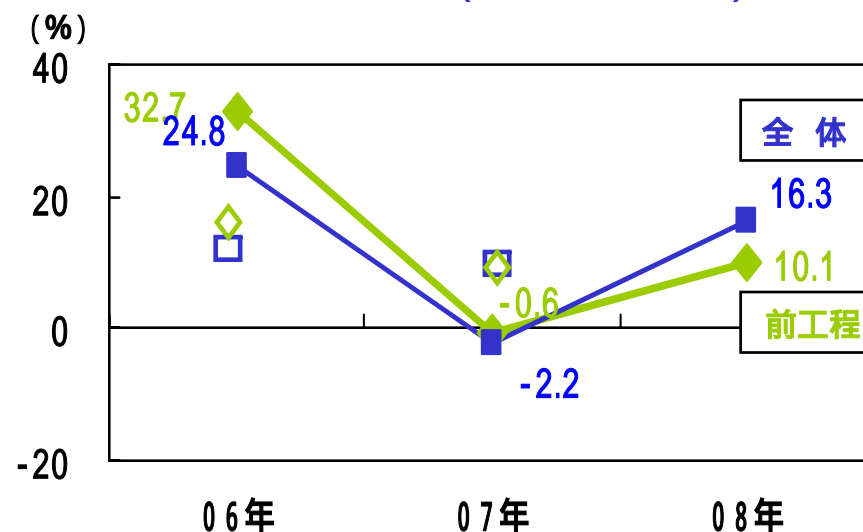
# 市場動向(半導体製造装置)

## 【半導体製造装置市場】



(出所) SEMIの2007年2月迄の実績値及び当社推測

## 【半導体製造装置市場(前年比伸び率)】



(注) 前回予想は、2006年10月の06年9月中間期決算発表時の見通し

< 前回予想 >		06年	07年
□	(全体)	11.9%	7.8%
◇	(前工程)	15.5%	5.8%

## 【状況説明】

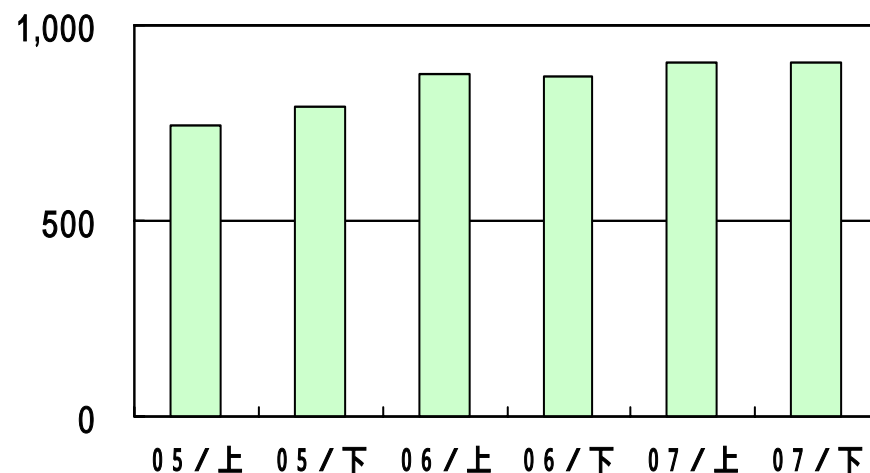
- ・06年度の半導体設備投資はDRAM、NANDフラッシュ等、メモリー向けに大型投資が行われ、さらに、9 - 12月におけるDRAM高騰により、2006年末 台湾、韓国にて追加投資が行われた
- ・07年度もメモリー向けに大型投資が行われる予定だが、一部ロジック系顧客にて設備投資金額の削減があり、全体/前工程半導体設備投資の07年度の伸び率は、ほぼ ゼロ近辺 と予想
- ・08年度は、07年度に半導体市場における生産/在庫調整が完了し、北京オリンピック(08年8月)、米国大統領選挙(08年11月)に向けた需要喚起により、08年度の市場伸び率は二桁になると予想



## 受注高の推移(半導体製造装置)

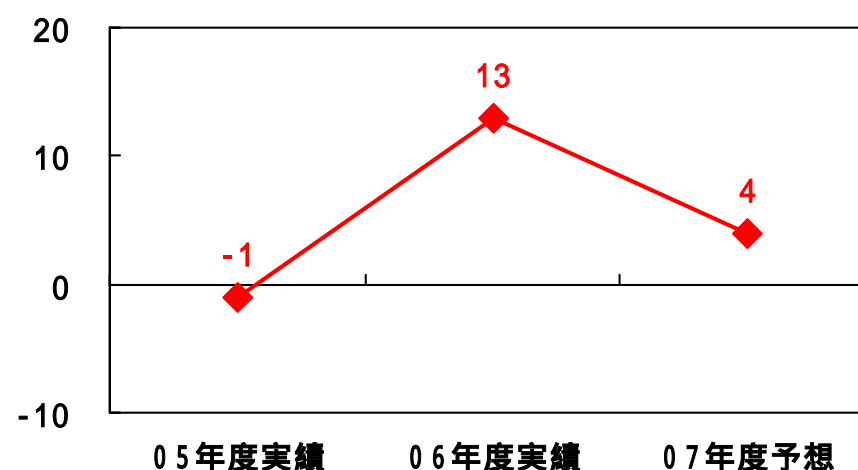
【連結受注高の推移】

(億円)



【連結受注高の推移(前年度比伸び率)】

(%)

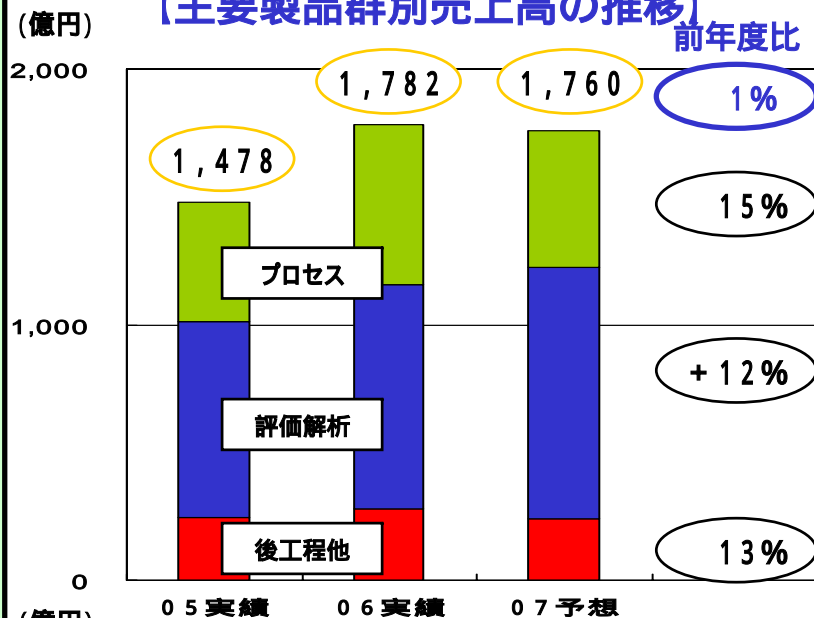


### 【状況説明】

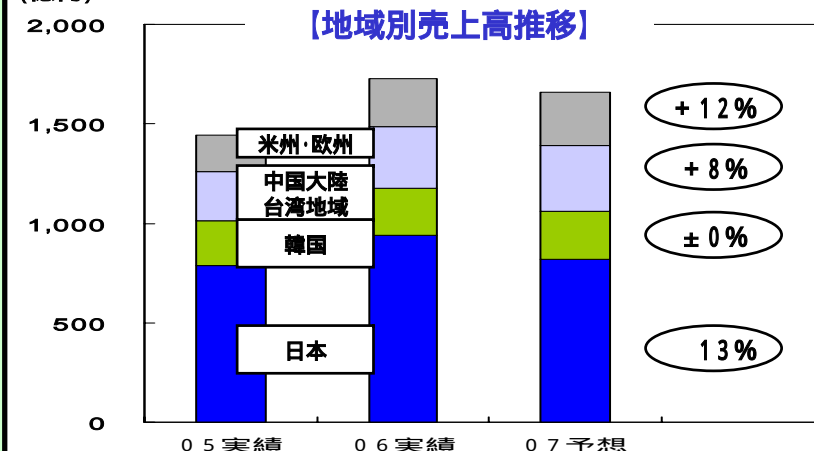
- ・07 / 上: 測長SEM、解析装置(FE - SEM)等の好調により、前年同期比 + 3%を予想
- ・07 / 下: エッチング装置の新規顧客獲得、検査装置の伸長等により、前年同期比 + 5%を予想
- ・07年度: エッチング装置、測長SEM、各種検査装置等の新製品効果等により、前年度比 + 4%を予想

# 売上高の推移(半導体製造装置)

【主要製品群別売上高の推移】



【地域別売上高推移】



【前年度比増減説明と今後の取り組み】

## プロセス装置

エッチング装置は、06年度、米国大手顧客向けが好調  
07年度は、米国に加えて、韓国、台湾地域より新規顧客を確保、さらなる売上増を見込む

ASML社製露光装置は、06年度、最新鋭機による新規顧客開拓により売上高が大幅に増加  
07年度は、継続的顧客サポートの充実により拡販を図る

## 評価・解析装置

測長SEMは、06年度、新製品投入により好調に推移  
07年度は、新ソフト(デザインゲージ)、マスク用測長SEM投入による競争力強化でさらに売上拡大を図る

検査装置(レビューSEM、暗視野検査装置)は、06年度レビューSEMが大幅売上増。07年度は、各種新製品の投入により検査装置全体の伸長を実現

解析装置は、06年度、主力のFE-SEMが堅調に推移、ナノプローブも重点顧客に実績構築。07年度は、STEM、TEMの新製品投入により売上拡大

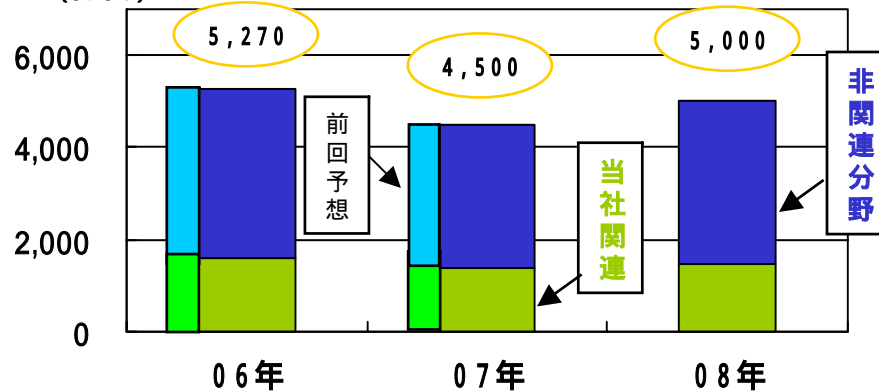
## 後工程装置(ダイボンダ)

06年度は、韓国・台湾地域の投資増加により過去最高の売上高を達成。07年度は減少するも、新規顧客開拓等により高水準を維持する

# 市場動向(液晶関連製造装置)

## 【液晶関連製造装置市場】

(億円)

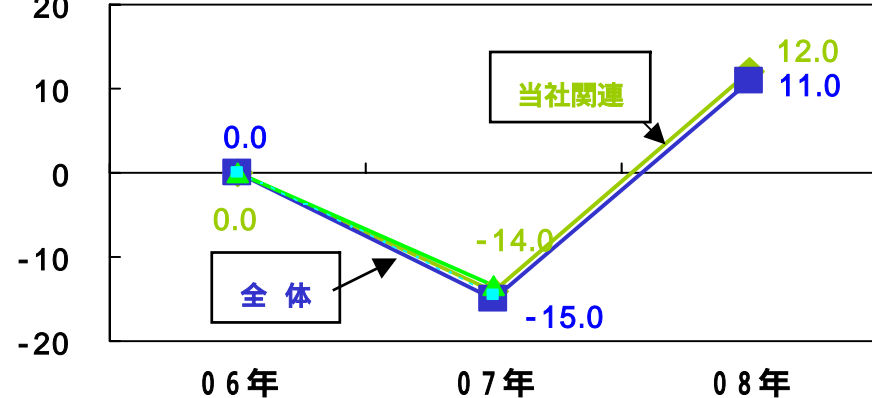


(出所) SEAJ(2007年1月)データに基づき当社にて推定

(注) 前回予想は、2006年10月の06年3月期中間決算発表時の見通し

## 【液晶関連製造装置市場(前年比伸び率)】

(%)



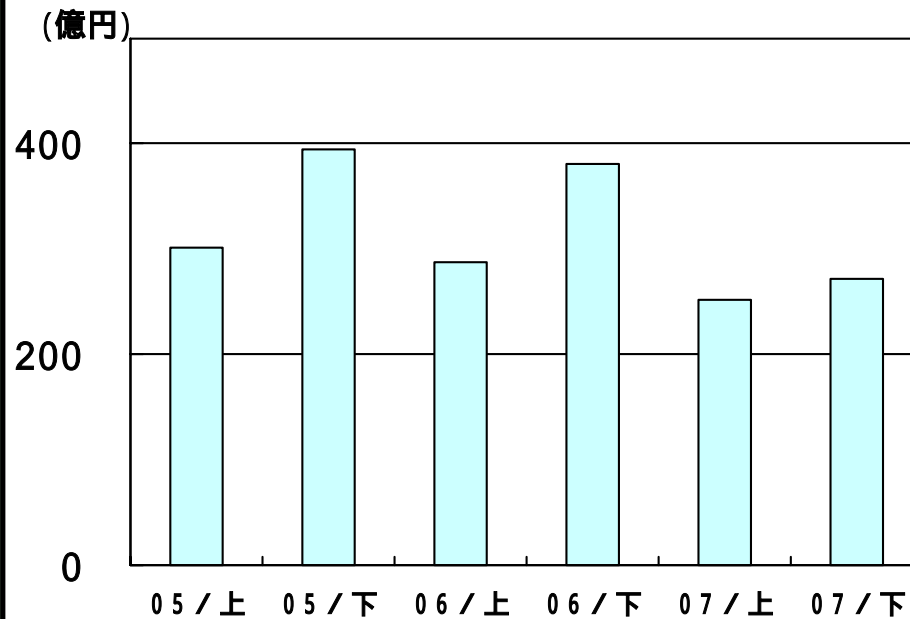
< 前回予想 >		06年	07年
□	(全体)	0.0%	14.6%
◇	(当社関連)	0.0%	13.3%

## 【状況説明】

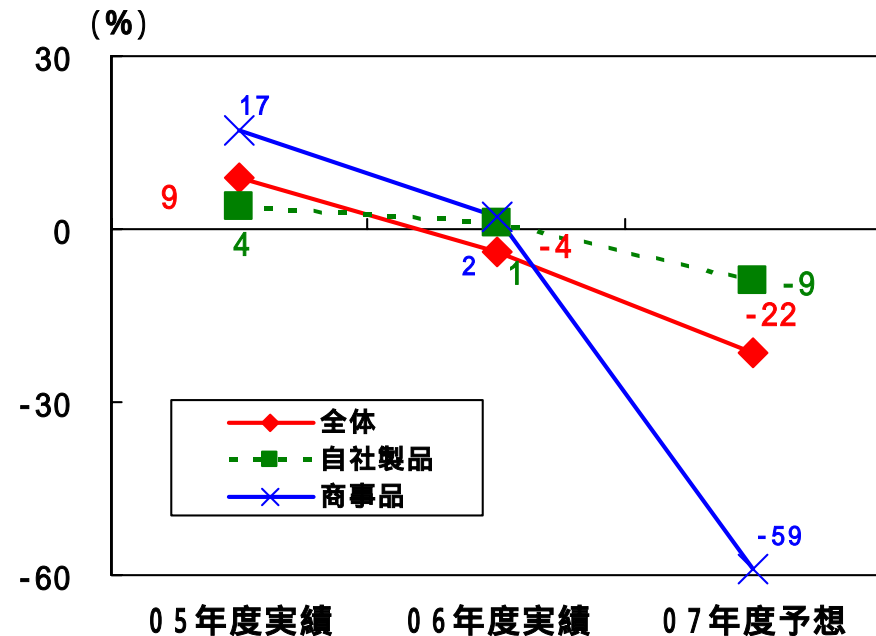
- ・液晶TVの需要拡大と大型化が加速、パネルメーカーの投資競争と急激な価格低下により韓国・台湾を中心に06年後半から07年の前工程投資計画予定は延期及び縮小
- ・一部のメーカーは次世代ラインの新設・増設を進めているが、07年の液晶関連製造装置市場は06年比 14%と予測
- ・後工程は消費地近傍での生産の動きが加速し、中国大陸だけでなく欧州、中米等グローバル化が加速
- ・08年には投資が再開され、製造装置市場は2桁増に回復する見込み

# 受注高の推移(液晶関連製造装置)

【連結受注高の推移】



【連結受注高の推移(前年度比伸び率)】



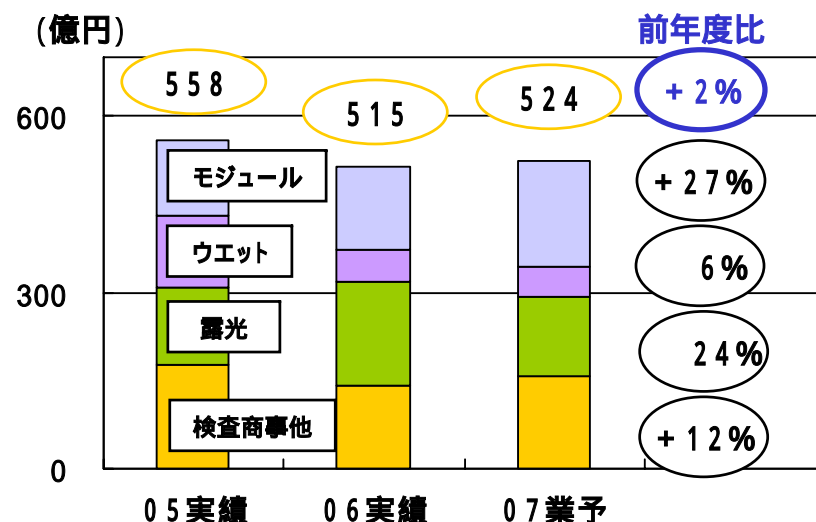
## 【状況説明】

- ・07 / 上: 実装装置は好調であるが、前工程の露光装置が大幅減となり前年同期比 10%を予想
- ・07 / 下: 露光装置は回復するが商事品が大幅減で前年同期比 31%を予想
- ・07年度: 前年度比は、上記により 22%を予想

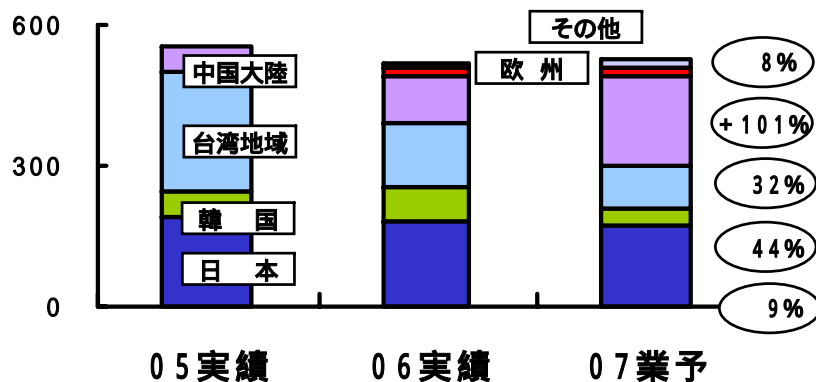
商事品は06年度、顧客計画前倒しに伴う大口受注計上により、前年度比 59%を予想(スポット要因)

# 売上高の推移(液晶関連製造装置)

## 【主要製品群別売上高の推移】



## 【当社地域別売上高推移】



## 【前年度比増減説明と今後の取り組み】

### < 前年度比増減説明 >

#### 組立・モジュール装置

- ・大型液晶テレビ対応新製品の投入や台湾メーカー等の中国大陆への進出加速に伴い、27%増加

#### ウェットプロセス装置

- ・海外新興メーカーとの競合と前工程の投資削減により減少

#### 露光装置

- ・G8、G7.5世代やBM対応露光装置など新製品の投入により、06年度は大幅増

07年度は前工程の投資削減で減少

#### 検査装置・商事品他

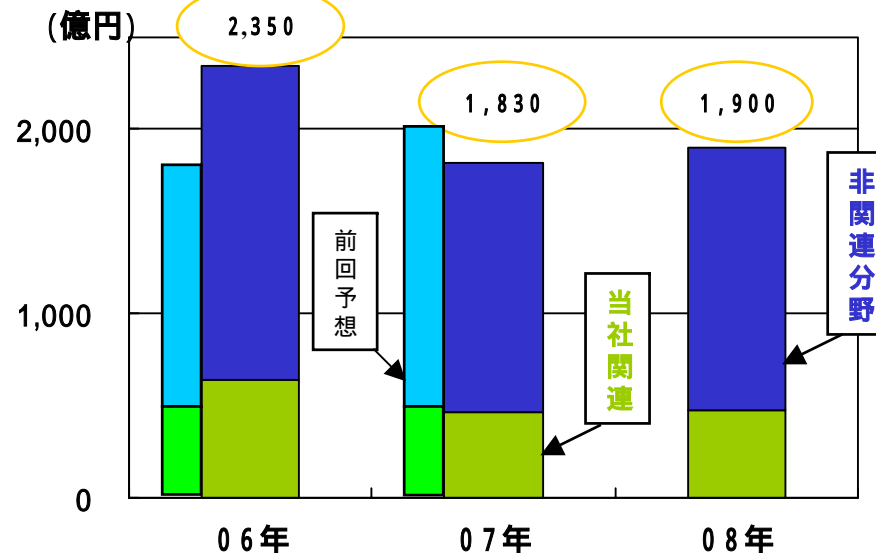
- ・プロセス内の検査装置はシェア確保するものの、大型化に伴うライン本数の減少や、ガラス基板用検査装置の投資が一段落し伸びは鈍化

### < 今後の取り組み >

- ・テレビ組立のグローバル化に対応する営業・サービス体制構築と生産能力増強(中国・欧米等)
- ・新プロセス対応製品の早期戦力化

# 市場動向(HDD関連製造装置)

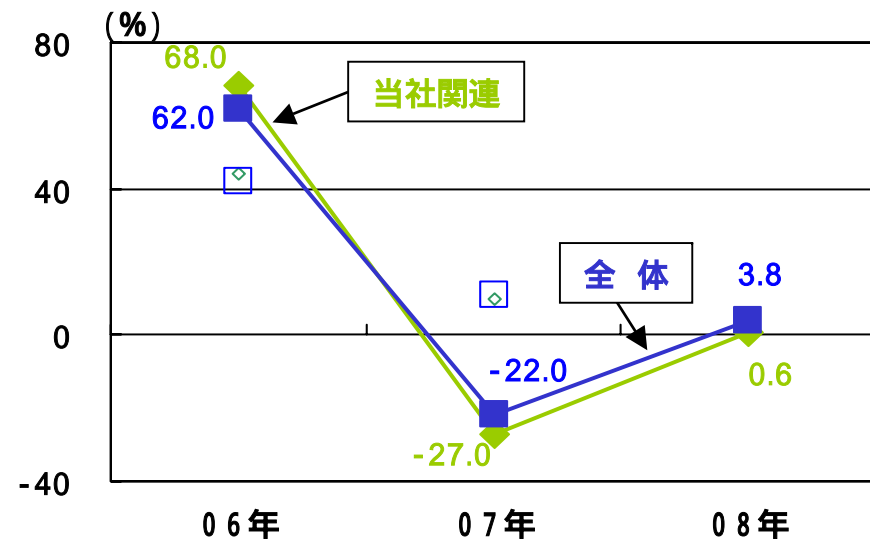
【HDD関連製造装置市場】



(出所)IDEMAデータに基づき当社にて予測

(注)前回予想は、2006年10月の06年3月期中間決算発表時の見通し

【HDD関連製造装置市場(前年比伸び率)】



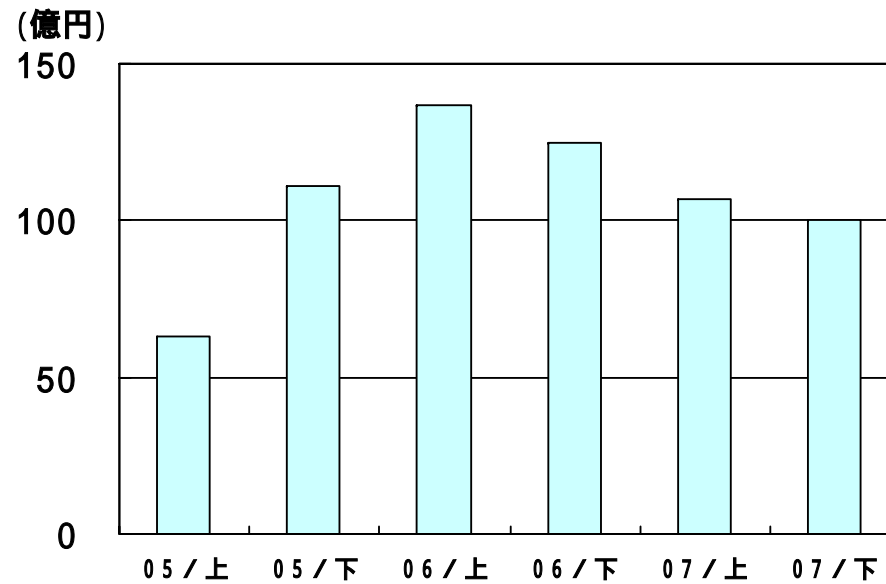
<前回予想>		06年	07年
□ (全体)	:	42.0%	9.9%
◇ (当社関連)	:	44.0%	10.9%

## 【状況説明】

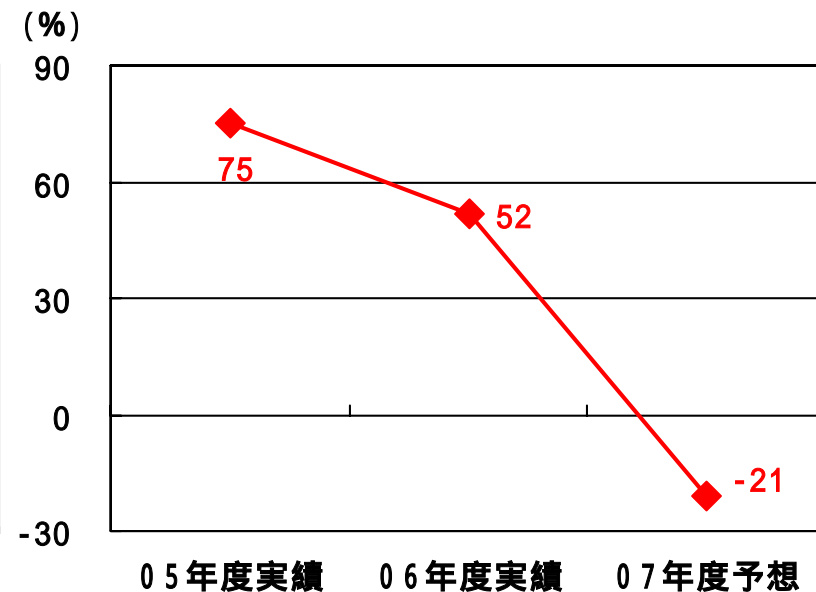
- ・06年HDD市場は、PC・非PC向けとも需要が大幅に拡大。設備市場は、ディスク・ヘッド需要拡大に伴い、専門メーカーを中心に新工場建設、新規増産ラインの大型投資が相次いだ
- ・07年HDD市場は、引き続き安定した伸びを示す。設備市場は、設備投資の一段落、高密度化の進展によるディスク搭載枚数の減少、キャプティブメーカーの内製化比率アップ・事業見直し等で06年比 27%と予測
- ・08年も、ディスク生産枚数の伸び率アップは見込めず、07年比+0.6%の微増

# 受注高の推移(HDD関連製造装置)

【連結受注高の推移】



【連結受注高の推移(前年度比伸び率)】



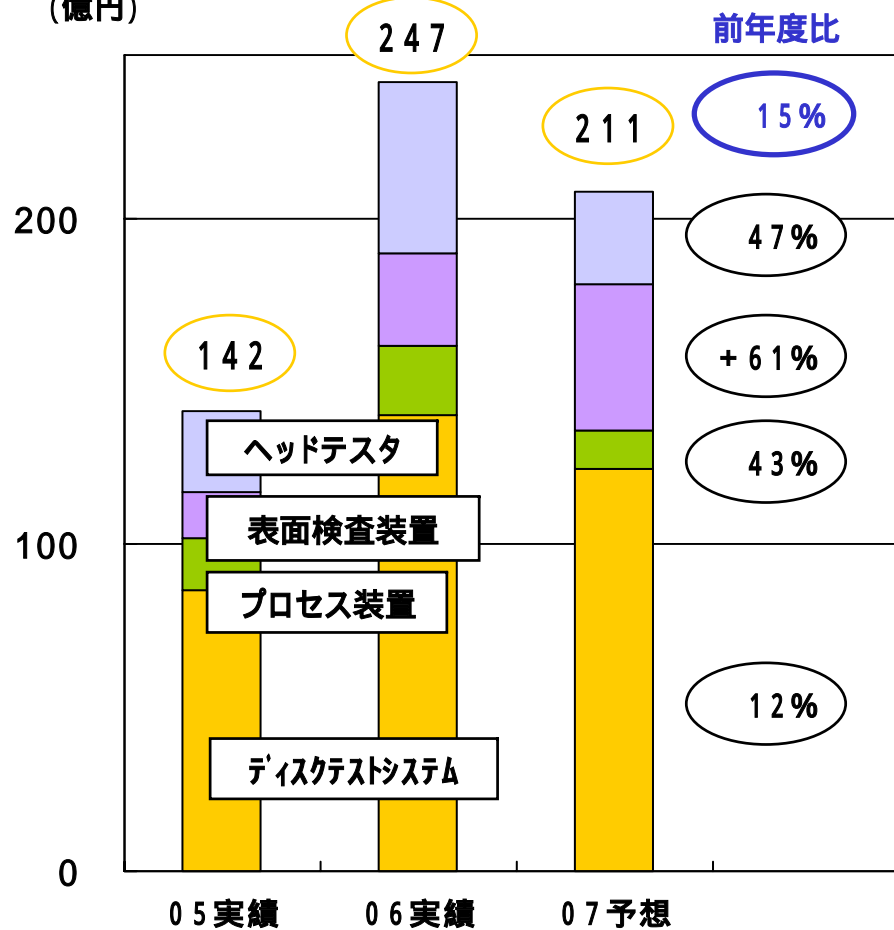
【状況説明】

- ・07 / 上:設備投資の計画延期や計画見直しが相次いでおり、前年同期比 22%を予想
- ・07 / 下:07 / 上に引き続き設備投資が減少
- ・07年度:前年度比は、国内メーカーの投資は一段落し、一部の米国メーカーの投資はあるものの、全体として踊り場となり、大幅減の 21%を予想

# 売上高の推移(HDD関連製造装置)

## 【主要製品群別売上高の推移】

(億円)



## 【前年度比増減説明と今後の取り組み】

### < 前年度比増減説明 >

ヘッドテスト

・主要顧客の工場統廃合等による設備投資減

表面検査装置

・新規顧客からの受注獲得による売上増

プロセス装置

・垂直ディスクへのプロセス転換による  
設備投資減

ディスクテストシステム

・ディスク生産枚数の伸び率減少による  
設備投資減

### < 今後の取り組み >

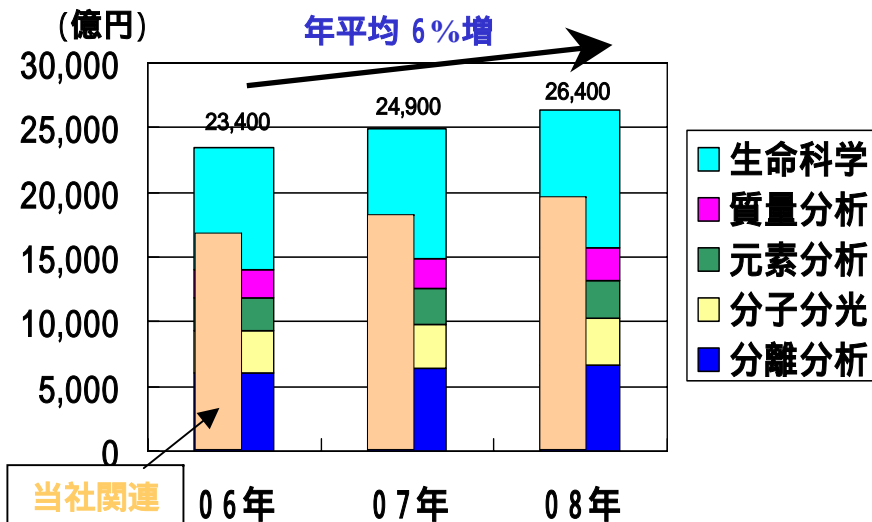
・米国大手顧客からの受注獲得

・新製品の開発と市場投入



# 市場動向(ライフサイエンス関連事業)

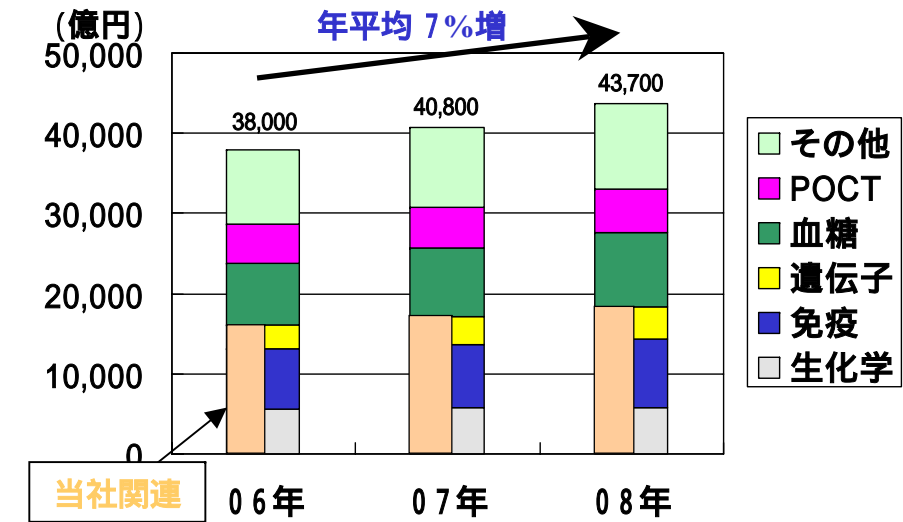
## 【ラボ用分析及び生命科学機器市場概況】



(出所)SDi Report 9th Edition(2006)

- 汎用分析分野(元素分析・分子分光・分離分析)の伸長は鈍化
  - 液体クロマトグラフは6%の伸び
  - 超高速対応の液体クロマトグラフの市場形成
- 質量分析市場は、8%の堅調な伸び
  - タンパク質解析から診断マーカー探索へ展開
- 生命科学分野の伸長は、一服感

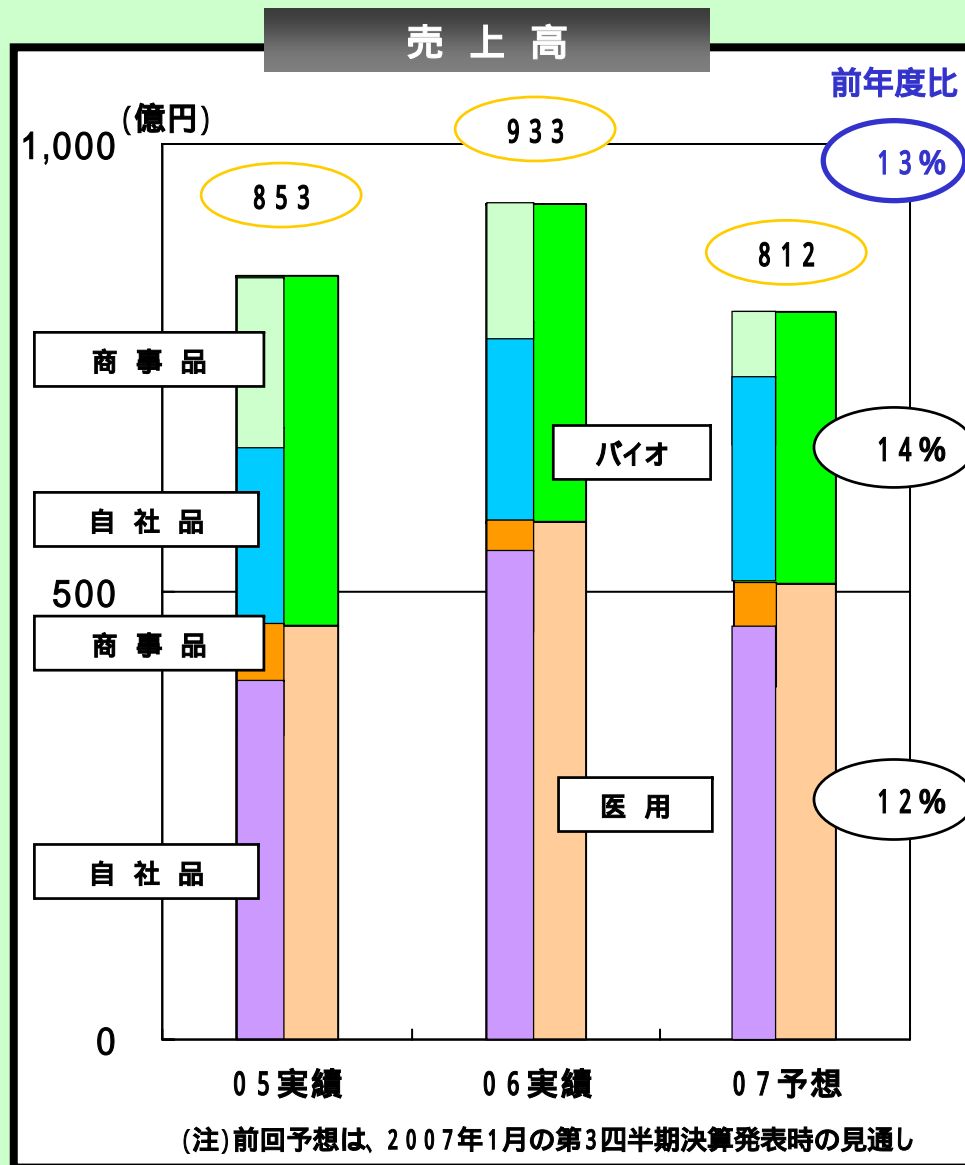
## 【体外診断関連市場概況】



(出所)Kalorama Information 5th Edition(2006)を基に当社推定

- 体外診断全体では7%の成長
  - 生化学分野は飽和、免疫分野は伸長
- 日本市場は飽和状態により、伸び率はほぼゼロ
- 遺伝子診断分野は、感染症を中心に16%成長

# 売上高の推移(ライフサイエンス関連事業)



## 【前年度比増減説明と今後の取り組み】

### バイオ関連事業

液体クロマトグラフは、06年度は新製品効果で売上増

07年度は新型カラム投入で超高速システムを本格立上げ

液体クロマトグラフ質量分析計は、06年度は優位化技術開発により売上増

07年度は診断マーカー探索市場向けへ展開  
DNAシーケンサは、遺伝子鑑定・食品等応用分野の深耕により業績水準を維持

取扱製品の見直し、ASEAN、インド市場での分析事業の立上げによる海外でのブランド強化

### 医用関連事業

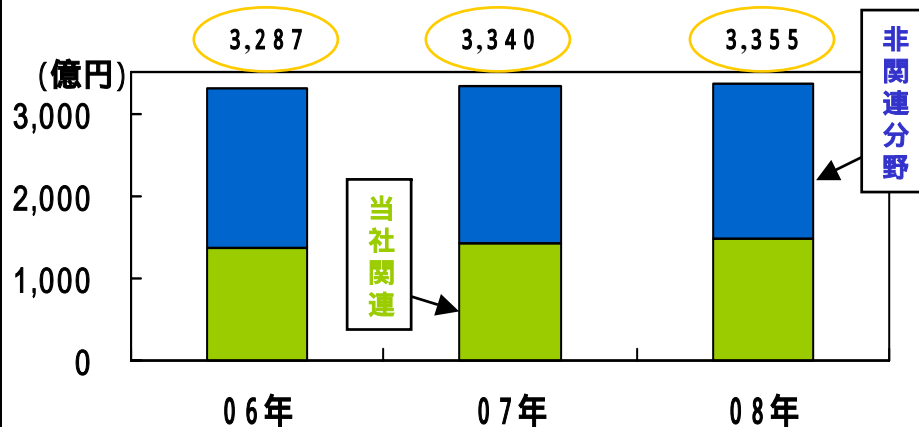
生化学・免疫分析装置は、06年度、欧米向け新製品投入効果により売上増

07年度は、反動減予想。引き続き、ラインアップ展開により拡販を図る

国内・中国向け新型装置の販売立上げ、中国向け装置・試薬のシステム販売推進、栄研化学(株)との遺伝子検査事業の開発推進を図る

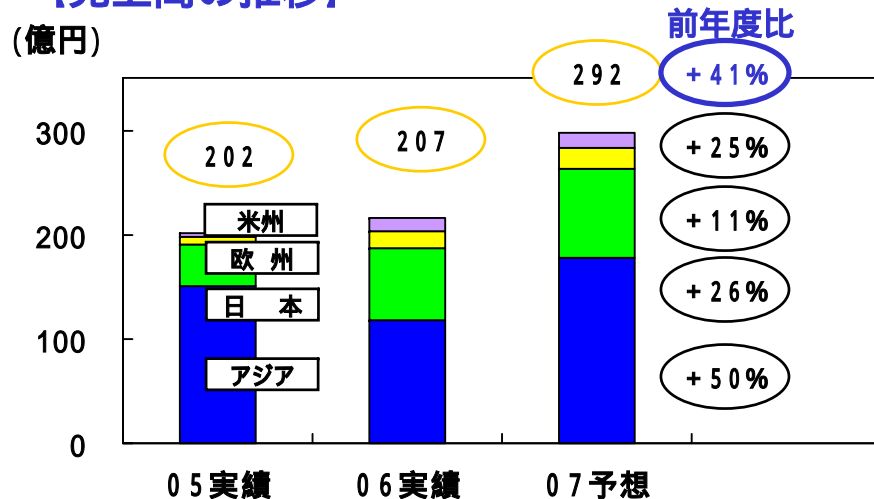
# 市場動向及び売上高の推移(チップマウンタ)

## 【チップマウンタ市場】



(出所) 日本ロボット工業会資料(2006年11月) 調査機関資料に基づき当社作成

## 【売上高の推移】



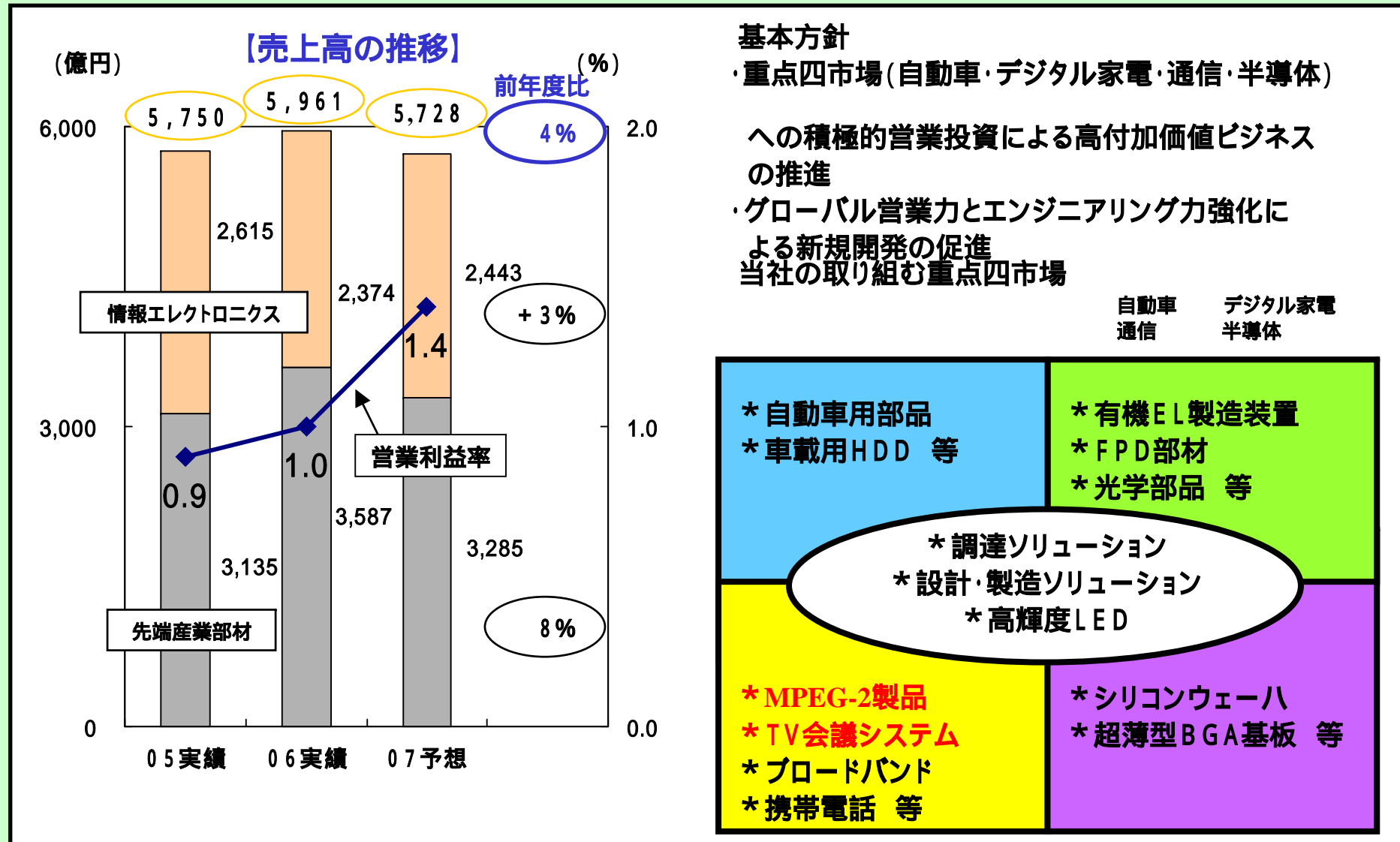
## 【状況説明(当社関連市場)】

- ・06年度は、デジタルAV製品やBRIC'sローエンド携帯電話分野が急成長
- ・07年度以降は、大型化・低価格化が進むフラットTV等のデジタルAV製品、電子化が進む自動車電装品の成長は持続するものの、市場全体では微増と予測

## 【対前年度比増減説明と今後の取り組み】

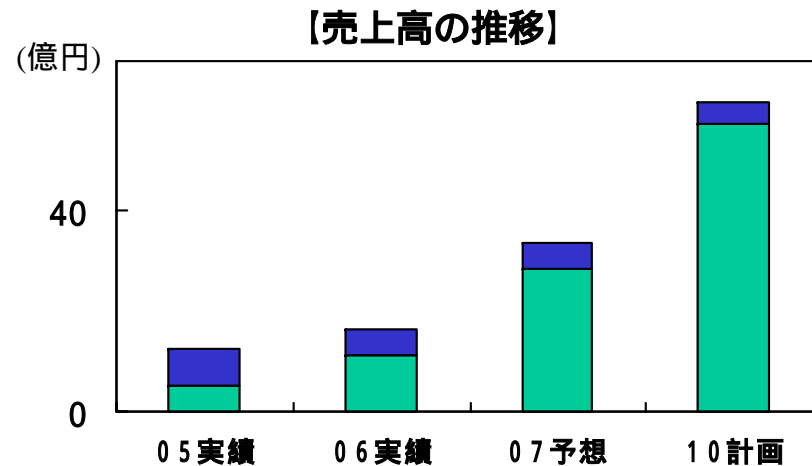
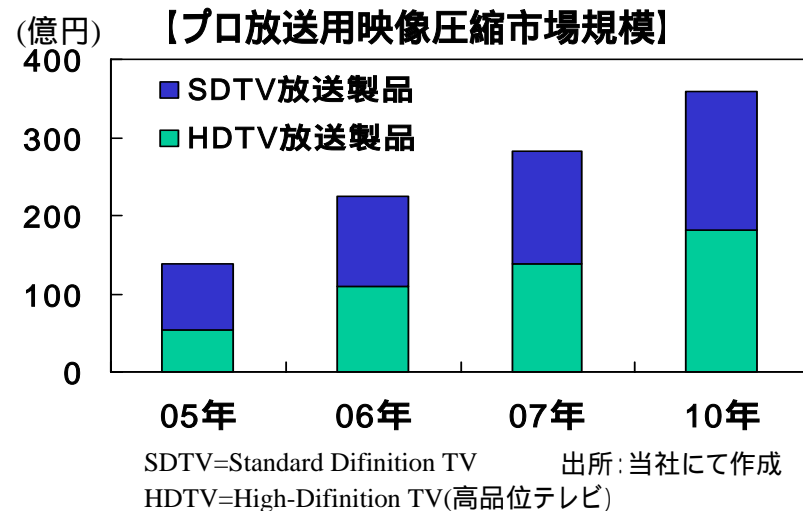
- ・06年度は後半になって顧客の納期後倒しの影響で前年度比微増
- ・07年度は新規顧客獲得によるシェア拡大により、対前年度比で大幅増加を予想
- ・今後の取り組み
  - \* グローバル営業力・サービス力強化によるCS向上、国内外拠点人員増強を継続
  - \* モジュールマウンタ新製品投入によるシェア拡大
  - \* 生産方式改善によるリードタイム短縮と原価低減

# 商 事 部 門



# 高付加価値ビジネス 戦略パートナーシップ

## NTTエレクトロニクス(株)(NEL)製MPEG-2製品の拡販



Moving Picture Expert Group 2(動画符号化方式の一つ)

### 【事業概要】

NEL製 映像圧縮製品の拡販  
LSI、モジュール、完成Boxを海外向けプロ放送用に拡販、ホームネットワーク分野へも拡充

### 【NEL製品の強み】

高画質、低遅延、低消費電力、小型化の技術力

### 【06年度実績】

1. ハイエンドプロ放送用HDTV製品が伸張
2. HDTV MPEG-2 LSI・モジュールへの開発費投資により戦略的パートナーシップを構築

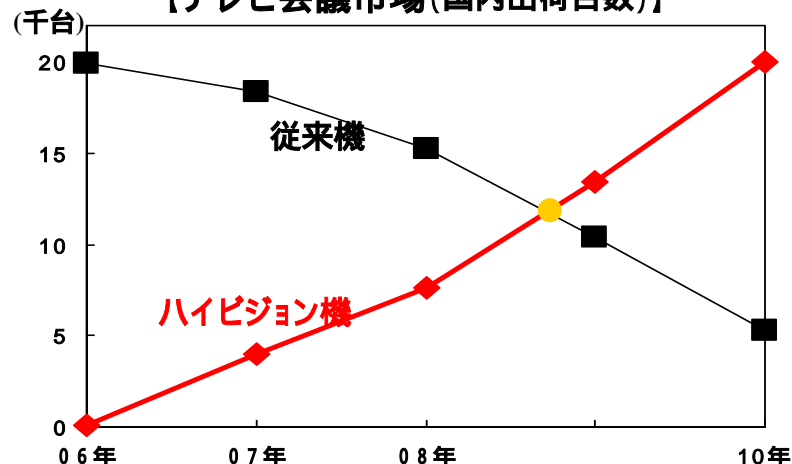
### 【07年度事業戦略】

1. 米国放送デジタル化の大型プロジェクト参加によるシェアアップ
2. W-W営業リソース増強、技術サポート専任の育成(自前エンジニアリング強化)による取引拡大・新規顧客の開拓
3. 無線チップメーカーとの協業によりプラットフォームを提供、デジタル家電ホームネットワーク分野を開拓

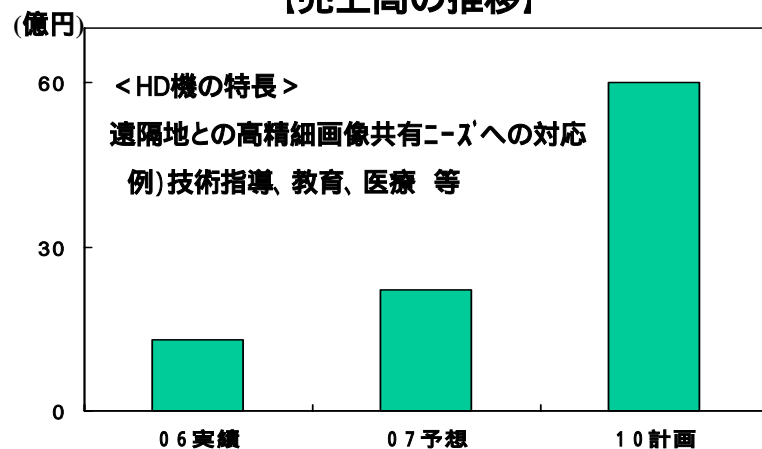
# 高付加価値ビジネス ソフトウェアエンジニアリング

## HD (HighDefinition) テレビ会議トータルソリューション ハイテクビジョン

【テレビ会議市場(国内出荷台数)】



【売上高の推移】



【事業概要と付加価値・強み】

### 商事品

LifeSize® (米国)

世界初ハイビジョン対応  
テレビ会議システム

Codian (英国)

多地点接続装置

### 自社ソフトエンジニアリング

日立ハイテク

会議予約運用ソフト  
ネットワーク構築  
ASPサービス  
保守サポート

商事品と自社ソフトエンジニアリングによる  
ワン・ストップ・ソリューションの提供

【06年度実績および07年度事業戦略】

1. 06年度LifeSize社製品の国内総販売代理権取得  
(07年4月～)
2. 代理店拡充による営業力強化

## 参考: データ集

---

# 四半期業績の推移

(億円)

	05年1Q	05年2Q	05年3Q	05年4Q	06年1Q	06年2Q	06年3Q	06年4Q
売 上 高	1,975	2,274	2,162	2,472	2,226	2,467	2,339	2,484
営 業 利 益	47	110	68	135	88	121	108	134
経 常 利 益	50	87	73	141	98	124	107	114
当 期 利 益	20	56	49	67	59	72	65	65

## <セグメント別売上高>

(億円)

	05年1Q	05年2Q	05年3Q	05年4Q	06年1Q	06年2Q	06年3Q	06年4Q
電子デバイスシステム	523	607	464	686	571	662	628	760
ライフサイエンス	196	212	197	249	213	239	217	265
情報エレクトロニクス	542	695	685	693	583	633	576	583
先端産業部材	714	760	816	845	859	933	919	876



# 設備投資額・減価償却費・研究開発費

(億円)

	05年度 実績	06年度 実績	05年度比	07年度 予想	06年度比
設備投資額	67	106	+59%	108	+2%
減価償却費	85	76	10%	108	+41%
研究開発費	179	191	+7%	229	+20%

(注) 設備投資額は取得ベースにて記載

# 主要製品群別売上高の動向 (億円)

	05年度実績	06年度実績	05年度比	07年度予想	06年度比
【電子デバイスシステム】	2,280	2,622	+15%	2,560	2%
プロセス装置	465	627	+35%	536	15%
評価・解析装置	769	877	+14%	983	+12%
液晶関連製造装置	558	515	8%	524	+2%
HDD関連製造装置	142	247	+74%	211	15%
その他	346	356	+3%	306	14%
【ライフサイエンス】	853	933	+9%	812	13%
バイオ関連機器	212	232	+9%	284	+22%
医用関連製品	461	563	+22%	486	14%
その他	180	138	23%	42	70%
【情報エレクトロニクス】	2,615	2,374	9%	2,443	+3%
情報システム	564	591	+5%	576	3%
組立装置	324	292	10%	383	+31%
半導体	683	432	37%	391	9%
メディアデバイス・情報通信	588	610	+4%	639	+5%
その他	456	449	2%	454	+1%
【先端産業部材】	3,135	3,587	+14%	3,285	8%
工業材料	1,354	1,680	+24%	1,559	7%
電子デバイス材料	422	524	+24%	590	+13%
光関連部材	371	309	17%	281	9%
その他	988	1,074	+9%	855	20%

### < 資料取り扱い上の注意 >

本プレゼンテーションで述べられている決算概要及び業績予想は、注記のない限りすべて連結です。

数値情報は、億円未満を四捨五入しています。

増減率は、基本的に円単位で計算しています。

本プレゼンテーションで述べられている将来の当社業績に関する予想は、現時点で知りうる情報をもとに策定されたものです。当社の参画する産業界はテクノロジーの変化が速く、競争の激しい産業です。また、世界経済、半導体市況、為替相場など、当社の業績に直接的・間接的に影響を与える様々な外部要因があります。

従いまして、今後、当社の業績が本プレゼンテーションと異なる可能性があることをお含みおきください。但し、大きな変動がある場合は、証券取引所の適時開示規則及び当社の自発的判断等に基づき、その都度公表していく所存です。

以 上